

お客様紹介

# アトムテクノス株式会社 様

(ISO9001:2015、ISO45001:2018認証登録)

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄  
Hideo Mino

アトムテクノス様は、道路用塗料国内トップメーカー、アトミクス株式会社の工事部門として平成7年に分社設立された会社で、本社はさいたま市にあります。

交通安全事業・土木工事業に従事し、人身の安全、道路の美化、土木構造物の維持修繕を目的とし、社会に貢献する、意義のある仕事に携わられています。2012年に9名が犠牲になった笹子トンネル天井板落下事故現場(山梨県大月市笹子町)でも、24時間突貫で作業、緊急復旧に尽力されました。

警視庁からの発注現場では、六本木アマンド前、お台場フジテレビ前、小石川橋東京ドーム前、雷門浅草寺前など、各横断歩道の塗装工事も担当されています。

右下写真の橋梁点検車は、地上高100m以上になり、先頭のゴンドラに乗ると大変怖いため、部下の方が嫌がると、上司の方が乗られるとのことでした。

また、昨今建設業界でも女性の進出が増えていますが、アト



新東名高速富士宮市現場

ムテクノス様でも、東北地方の現場に女性技術者(2級建築士)の方が約2年間従事されており、現場の雰囲気が和むとチームワークもスムーズに進んでいるそうです。女性が働きやすい環境づくりにも取り組まれ、今後益々の活躍が期待されます。



先端のゴンドラに乗る点検車

<http://www.atomtechnos.jp/>

連載  
よみもの

## 審査員の心理

第30回 (環境編)

### 「環境目標(2)」

環境主任審査員 大村 敏夫  
Toshio Omura

前回は、組織にとって必要な取組みが目標になっているかについて述べましたが、多くの組織にとって、省エネ・省資源・排出物の削減は環境面での永遠の課題でしょう。これらを目標とすることは妥当と思いますが、課題がそのまま目標となっている場合も見かけます。例えば、「〇〇の削減」という目標では、何を基準として削減するのか、どのように評価するのか不明確と感じられます。目標については、「(実行可能な場合)測定可能である」(6.2.1)ことが求められていますが、“測定可能”とは、必ずしも“数値化”ではありません。取組みを工程表で計画し、実績と比べること、改善前後の写真を比べることで測定可能となることがあるでしょう。「進捗を監視するための指標を含む結果の評価方法」(6.2.2)を明確にすることが望まれます。

目標とは「達成する結果」(3.2.5)であって、その「環境目標を

達成するための取組みの計画策定」(6.2.2)を規格は求めています。

例えば、“〇〇の前年比10%削減”という目標を設定した場合、その達成のための施策が明確で無いと、どのように取り組むのか分かりません。施策は目標を達成することが期待できるものが望まれます。例えば、目標への取組みとして“毎月、勉強会を実施する”という施策が挙げられ、勉強会が毎月実施されていたら目標達成としているが、目標とした削減等はできていない、ということもありました。

適切に設定された目標でも、達成できないこともあり得ますが、“目標未達”を理由に、審査員は不適合を指摘することは無いはずですが。生産量の増減、気候変動などの影響を受けて、エネルギーや資源・廃棄物などの量も増減するでしょう。昨今の新型コロナウイルスの流行の影響で多くの企業の活動(生産や働き方など)にも変化が発生しています。このような状況の変化に応じて、目標や施策の見直しがされても良いでしょう。

審査では、組織にとって必要な課題やリスク・機会から目標が設定されているか、達成度が評価可能か、施策としての取組みが目標を達成可能なものか、状況に応じて見直されているかを確認するようにしています。

